

10月の指導

物語の指導(単元を貫く言語活動)



全国初等教育研究所 福本 菊江

新学習指導要領では、各教科等において言語活動の充実が求められている。そこで、国語科においては、他教科の基盤となる言語能力を養うという重要な役割を担うこととなった。単元で身に付けさせたい力を明確にし、確実に力を付けるには、単元を貫く言語活動を位置付ける必要がある。

学習指導要領では、内容(1)と内容(2)が示され、内容(1)は指導事項であり、内容(2)は、(1)の指導事項を指導する際の具体的な言語活動を例示している。

各学年の「読むこと」の言語活動例は下記のとおりである。

1 「読むこと」の言語活動例

学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
言語活動例	<p>ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。</p> <p>イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。</p> <p>ウ 事物の仕組みなどについて説明したり本や文章を読むこと。</p> <p>エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読むこと。</p> <p>オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。</p>	<p>ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。</p> <p>イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。</p> <p>ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。</p> <p>エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。</p> <p>オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</p>	<p>ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。</p> <p>イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章などを利用すること。</p> <p>ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。</p> <p>エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。</p>

2 言語活動と身に付けさせる言語能力

言語活動		身に付けさせる言語能力
演 じ る	劇	登場人物になりきって演じる能力。登場人物の行動を動作化することによって心情や情景を想像する能力。(描写に動きのあるものはやりやすい。)
	ペープサート (紙人形劇)	登場人物の行動を読み取り、ペープサートで演じる能力。表と裏に別の登場人物の絵を描いて、持ち手の棒などにつけて、背景の前で動かして演じる。主にお話の筋に合わせて反転させて、お話や絵の変化を楽しむ。(表と裏で別の絵が描かれており、背景の前で人形を動かすことと、人形の表裏を返すことによって、動作を表現する。)
	紙芝居	物語を場面に分け、絵を描き、裏にお話を書き、演じる能力。(物語を場面に分け、絵を描き、横に抜く動きを計算して絵を配置する。絵に変化を付ける。)
	音読(朗読)劇	音読・朗読で登場人物の気持ちを想像し、表現する能力。
	群読	ソロ・アンサンブル・コーラス・多勢で音声表現する能力。
紹 介 ・ 推 薦	本の帯	表紙・背表紙・裏表紙にそれぞれ推薦の言葉を書く。三つの場所に書く内容を考えさせる。紹介の観点を工夫させる。要約する力。
	推薦文	あらすじ・感動を受けた場面・作者について・主題などを書き、本を推薦する文章を書く能力。本を読むことで自分の考えがどのように深まったかを明確にすることが大事である。
	読書ポスター	心に強く残った場面や言葉を絵と文で表現する能力。どの部分を切り取るかを考えることで引用や要約の力。
	本のショーウ インドウ	項目を決めて、感動した場面やあらすじなどを書き、本を紹介する能力。要約する力。作品を紹介するための引用する力。
	リーフレット	一枚紙のもの。二つ折り、三つ折りなど折り方を変えることで構成を工夫する。あらすじ・感動の場面・好きな場面の引用・要約する力。
	パンフレット	複数ページであるが簡易的に綴じたもの。指導事項と関連付けて、項目を決定する。
	ブックトーク	テーマを決めて、数冊の本を順序よく紹介する図書の紹介の方法である。聞き手に本に興味を起こさせる目的で行う。あらすじ・感動の場面・感動の描写・作者について・生き方について、引用・要約する力。
ポップ	キャッチコピーのように短い言葉で人を引きつけるために、紹介に必要な言葉を考えながら読むことができる。	
創 作	手紙を書く	相手意識をもち、伝えたいことを明確にして書くために、どんなことを伝えたいかによって読みの観点を変えて読むことができる。人間関係力。
	続き話を書く	続きを書くために、場面や登場人物の設定、作者の書きぶりなどを考えながら読むことができる。お話を想像し、創作する力。

3 単元を貫く言語活動の四つのステップ

ステップ1 身に付けさせたい言語能力を明確にする。

○年間計画を基に、単元で取り上げる指導事項（身に付けたい力）を見極める。

ステップ2 身に付けさせたい言語能力を育成する最適な言語活動を位置付ける。

○言語活動例を手掛かりにする。

○言語活動がもつ特徴を分析する。

ステップ3 言語活動が児童の課題解決の過程となるようにする。

○課題解決のためにどのような手順で学習を進めていくか考えることによって、一時間一時間の授業のねらいがはっきりしてくる。

第2次でも、言語活動を意識できるようになっているかが指導過程を構想するときのポイントである。

ステップ4 思考や判断を促す発問や指示を具体化する。

○「大好き!」「お気に入り」「はてな?」「伝えたい」を生かして、主体的に取り組めるようにする。

4 指導の実際

(1) 2年かさこじぞう 言語活動 ・場面と人物の様子を思い浮かべて音読劇をしよう。

①単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「音読劇で演じる」ことを位置付けた。そして、自分の好きな場面について、登場人物の様子を思い浮かべて、感じたことや想像したことを音読や動作化で表現し発表するのである。従って、本単元でねらう「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」(C読むことウ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

②単元構成と言語活動

第一次 (第1時)	第二次 (第2時～第6時)	第三次 (第7時～第11時)
1 音読劇を聞き、課題意識をもつ。 (1)音読劇を聞き、感想を話し合う。 (2)「かさこじぞう」を読み、好きな場面を音読劇で演じるために学習計画を立てる。 ・「かさこじぞう」の読み聞かせを聞く。 ・「かさこじぞう」を音読し、好きな場面を見付ける。 (3)昔話を読んで、好きな話の音読劇をする課題を知る。	2 物語の感動した場面や好きな場面を見付けて読む。 (1)音読劇をすることを意識して、繰り返し音読し、好きな場面を2～3か所選ぶ。 (2)好きな場面を繰り返し音読し、1か所にしぼる。 (3)一番好きな場面を音読し、選んだわけを書く。 (4)好きな場面を紹介し合う。 ・選んだわけと好きな場面を音読し、紹介し合う。 (5)同じ場面を選んだ人でグループを作り、音読劇の練習をする。 (6)「かさこじぞう」の音読劇の発表をする。	3 好きな話の音読劇をする。 (1)昔話を読み、好きな話を選ぶ。 (2)同じ話を選んだ人でグループを作り、音読劇の計画を立てる。 ・どの場面を音読劇にするか。 ・役割分担をする。 ・音読練習をする。 (3)音読劇の発表会をする。
並 行 読 書 (昔話など)		

(2) 5年 大造じいさんとがん 言語活動 ・ 椋鳩十の作品を紹介しよう。

①単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「椋文学の世界を紹介する」ことを位置付ける。ここで取り上げる紹介文は、椋鳩十の作品の中で、好きな物語の感動が聞き手に伝わるように、あらすじや感動、気に入った表現や情景描写に対する感想を工夫してまとめて本を紹介するのである。従って、単元の目標である「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」(C読むことエ)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」(C読むことオ)などの言語能力を実現するために適した言語活動であると考えた。

②単元構成と言語活動

第一次(第1時)	第二次(第2～6時)	第三次(第7～9時)																		
並 行 読 書 (椋鳩十の作品)																				
<p>1 ブックトークを聞き、本の紹介の仕方について知り、学習のめあてをもつ。</p> <p>(1)教師のブックトークを聞く。</p> <p>(2)紹介された本を読む。</p> <p>(3)紹介文に書く項目を聞く。</p> <p>(3)椋鳩十の作品の並行読書を知ることを知る。</p>	<p>2 教材文「大造じいさんとがん」を読み、紹介文の各項目を書く。</p> <p>(1)あらすじを書く。</p> <p>(2)感動した場面を選ぶ。</p> <p>(3)一番感動した場面を選び、理由を書く。</p> <p>(4)優れた描写を選び、視写し、想像したことを書く。</p> <p>(5)作者について調べる。</p> <p>(6)推薦文を書く。</p> <p>2 各項目ごとに、グループで話し合い、いろいろな考えがあることに気づき、いいなあと思う所は書き加えをする。</p> <p>3 グループで、紹介文を発表する。</p>	<p>3 並行読書で読んだ中から紹介する本を選び、第二次で学んだことを生かし自分が選んだ作品を読み、表現する。作品の魅力を紹介し合う。</p>																		
	<table border="1"> <tr> <td>あ ら す じ</td> <td>感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写</td> <td>作 者 に つ い て</td> <td>推 薦 文</td> <td rowspan="2">交 流</td> </tr> <tr> <td>あ ら す じ</td> <td>感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写</td> <td>作 者 に つ い て</td> <td>推 薦 文</td> </tr> </table>	あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文	交 流	あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文	<table border="1"> <tr> <td>あ ら す じ</td> <td>感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写</td> <td>作 者 に つ い て</td> <td>推 薦 文</td> <td rowspan="2">交 流</td> </tr> <tr> <td>あ ら す じ</td> <td>感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写</td> <td>作 者 に つ い て</td> <td>推 薦 文</td> </tr> </table>	あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文	交 流	あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文
あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文	交 流																
あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文																	
あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文	交 流																
あ ら す じ	感 動 し た 場 面 ・ 表 現 描 写	作 者 に つ い て	推 薦 文																	

身に付けさせたい言語能力を明確にし、単元を貫く言語活動を考え、単元構成をする。そして、**授業をかえる**。言語能力を付けるための授業を構想することが重要です。主体的な読みの学習に取り組み、読書の習慣作りが重要です。

言語活動で、確かな言語能力を身に付ける授業実践をしましょう。

